

逗子の景観まちづくり

瓦版 第九十号

やさしい挨拶

逗子に住み始めて少したったころ、花のある庭が多いということに気が付いた。以前住んでいたのはニュータウンの片隅だった。都内に通勤して帰宅も遅かったこともあり、花や草木を眺める余裕があまりなかったのかもしれない。



「春うらら」 関 恵梨子

二〇二六年四月十五日 次号は七月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

わが家の小さな庭にも、前の住人が植えたバスマツリの木がある。引越しが5月だったので、ジャスミンのような甘い香りがしていた。紫色の花が次第に白く変化していくのもおもしろい。夏が終わるまで次々と花を咲かせてくれた。周辺の空気まで包んでくれるような香りが、庭に出るたびにリフレッシュさせてくれる。

春は沈丁花に始まり、ミモザやモクレン、チューリップ。6月ごろになると、赤いオシロイバナをあららこちらで見かけるようになる。夕方に近くを通ると、むっとするほどの香りが立ち込めている。オシロイバナにこんなに強い香りがあると気付いたのも、逗子に住むようになってからだ。生垣のように植えられたローズマリーがあると、軽くなでて指先に移った香りをかぐこともある。紫色や青色の、葉のあいだから小さく除く花が初夏の光に映えて美しい。花屋でしか見たことのなかったクレマチスも、逗子では庭先でよく見かける。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp



「クレマチス」 関 恵梨子

秋はもちろんキンモクセイ。目で見つけるより先に、鼻が見つける。冬にはロウバイ。顔を近づけ香りを確認するのが、習慣のようになっていく。どの花の香りも、いつもやさしく挨拶をしてきているようだ。

近所に長く空き家になっている家がある。その荒れた庭にも梅の花やヤマブキが咲く。少し切ない。けれど確実に季節が巡っていることを告げてくれていると考えるようにする。

文・壬生 玉枝



第2回 まちなみデザイン逗子賞のご紹介 応募部門(表彰)



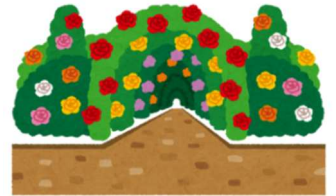
ホームページからも
ご覧いただけます↑

まちなみデザイン逗子賞とは・・・逗子市景観条例第40条に基づく表彰制度として、景観形成に寄与している建築物、工作物、外構、広告物、活動(美化活動など)について一般募集等を行い「まちなみデザイン逗子」実践スポットとして認定・表彰しています。今号では前号に引き続き「第2回 まちなみデザイン逗子賞」の中から応募部門で表彰された3件をご紹介します。



桐ヶ谷歴史庭園

田越川の支流に囲まれた広大な敷地に四季折々に多彩な表情を見せる沢山の樹木とバラ130本を植えられた庭園は、よく手入れされていて、山なみとも調和している。園内にある歴史資料館とともに地域に開かれ、魅力的な憩いの場となっている。



建築物と外構(個人宅)

緑豊かな環境と地形を生かし、屋根面を低く抑え外壁に天然木を用いることで自然に溶け込むような建築物となっている。開かれた前庭に植樹されたイロハモミジの存在が目を惹く。山の根における谷戸景観といった特徴をよく読み取り、まちなみをデザインした事例である。



外構(個人宅)

地元産の石材(池子石)を使った趣のある石垣に合わせて植えられたクロマツ並木とモチノキが沿道にうおいを与え、周辺の山なみとも調和し逗子の歴史的な景観を創出している。洋風家屋でもクロマツが調和する良い例となっている。

